

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			戸建て住宅を活用しているため、全体活動の場とクールダウンや個別支援の必要な場合などで部屋を分けることが出来ている。リビングを全体活動の場としているが、車いす・バギー使用児が多い時にはスペースが手狭になるため、部屋を分けるなどの工夫が必要となる。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			教諭や保育士・介護福祉士等を配置している。配置数は基準よりも多く配置している。OTやSTなどの専門職については配置なし。保育士・介護福祉士等の資格については法人として積極的に受験をサポートしている。あい・さかいサポートリーダー2名
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか			○	知的障がい、身体障がいどちらにも対応できる事業所を目指しており、合理的配慮を必要とする児童に対しては部屋を分けるなどして対応を行っている。各階にトイレは一つずつあるが、誰かが先にトイレに入っていれば身体に障がいのある児童は待つか、スタッフが抱えて2階に行くしかないのが現状。賃貸のため、現状の中で出来る範囲の配慮を行っている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか			○	振り返りについての機会が少なく、改善の余地あり。シフト等の時間を改善していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			毎年保護者へアンケートを行い、改善策等をフィードバックしている。面談時にも不安や要望などを聞き、スタッフ間で共有している。また、スタッフにもアンケートを取っている。事業所としての改善だけでなくスタッフの働きやすい職場作りが児童への支援の向上になると考えている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			HPにて公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		第三者による評価は行っていない
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			毎月の職員会議に研修を盛り込んだり、個別に外部研修へ参加する機会を作っている。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			保護者との面談を年2回以上実施。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			職員間ではパソコンやスマホを使用。記録等を行い、情報共有を行っている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか			○	常勤職員が立案している。非常勤職員を交えた多様な視点から立案を検討したい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			常勤職員が主となり立案しているが、非常勤職員も交えて立案していきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか			○	月次予定を作成し、活動を設定しているが、平日は利用時間が短いため個別対応となる場合が多い。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			全体での活動プログラムや個別のプログラムを用意し、状況や児童に合わせて取り入れている。個々に合わせたプログラムや保護者様の要望をもとに活動を行った。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか			○	不十分な時があると感じられるため、もう少し時間設定を増やしていきたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			平日の午前中や児童帰宅後に、スタッフ間で昨日、本日の出来事や、支援の内容について意見を出している。社員・非常勤全員参加の会議は月に1回定期的に行っており、不安や気になることなど各スタッフからの意見を取り入れている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			利用時の様子を毎日個別に取っており、その日居合わせなかったスタッフも閲覧できるようにしている。その日の児童の様子を詳細に記録することで課題や変化を確認しやすくなっている。その時の背景や会話なども記録することでモニタリング面談や次回の支援計画にも活用しやすい。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		半年に一度以上面談を行っており、変化や課題などゆっくり話す場を設けている。その際に色々な意見や要望も聞き、計画だけでなく日々の生活についても話し合っている。日々の活動の記録を写真や動画で見てもらうことによりわかりやすく活動の内容を伝えることが出来ている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	○		日誌や連絡帳等を毎年度見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		参加できている。関係事業所・保護者を含めた会議もあり支援内容の共有を行っている。普段と違った情報は出来る限り学校や相談支援へこまめに連絡を取っている。新型コロナウイルスの影響で各機関が一同に集まるのが例年に比べ難しく実施回数が減った。その代わりに機関との電話連絡、ズームでの会議回数が増えた。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		児童の情報で学校と直接やり取りする機会は送迎時の引継ぎ時ぐらい。相談支援員が間に入ってやり取りすることが多い。それぞれの学校で開催される説明会や懇談会は積極的に参加するようにしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○		看護師を配置することが出来ていない為、医療的ケアの必要な児童を受け入れることが出来ていない。児童の特性上、特に注意する点については主治医等に直接、支援方法についてアドバイスをもらうなどして連携をとっている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○	保育所等での引継ぎはあったが、就学以降は連携が取れていない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		許可をいただいた事業所へは、卒業生の様子を見学させていただき、情報の引継ぎを行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		支援の内容や取り組みなどについて情報交換を行っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	機会がないため、お互いの理解を深め、知ってもらうためにも今後検討していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○		参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		連絡帳に日々の様子を記載し、送迎時にも出来事や特記事項を伝えるようにしている。送迎には支援にあたったスタッフがしているので、その時の背景や児童の気持ちなど詳しく伝えることが出来ると思う。送迎時には連絡帳に記載した内容以外のことを伝えられるように心掛けている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○	個別の相談は行っている。一緒に方法を考え、家庭や事業所で支援を実践し情報共有を行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		見学時や契約時に説明している。金額等に変更があった際には書面にて交付している。支援の内容などについては日々の送迎や電話連絡で保護者の意見ももらいながら行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		不安や不満があった際には出来る限り、保護者へ寄り添う対応を心掛けている。基本的には管理者クラスで対応を行っているが送迎に行ったスタッフが話を聞くなどした場合には一旦持ち帰り、対応を検討したうえでフィードバックを行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○	していない。

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			基本的には管理者クラスで対応を行っているが送迎に行ったスタッフが話を聞くなどした場合には一旦持ち帰り、対応を検討したうえでフィードバックを行っている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月発行している。保護者だけでなく、児童も楽しみにしてくれている。
	35	個人情報に十分注意しているか	○			個人情報使用同意書を契約時に説明し署名をいただいている。スタッフについても採用時研修を行い、個人情報について誓約書を書いている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			言葉や絵カード、あいうえお表などコミュニケーションの手段を取り入れるとともに、相手の気持ちを読み取るようとする意識を心がけている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		地域住民との交流はあるが、事業所へ招待等についてはコロナ以降出来ていない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか			○	マニュアルはあるが、書かれている内容だけでなく児童や緊急時の状況に合わせて応用できるようにスタッフ間で共通認識を持てるように普段から心掛けている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			避難訓練は児童のいる時間帯に毎月行っており、不審対策や火事・地震など発生時の状況を変えながら訓練を行っている。不測の事態でも対応できるように「●●の場合」「■■の場合」等様々な状況を想定した避難計画案を作成し、訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			研修には社員だけでなく非常勤スタッフにも出席してもらい、内容を社内で共有できるように話し合いや回覧を行っている。障がい特性の理解の部分では、各スタッフで知識の差があるので社内での研修の機会や職員会議の際に密に話し合っている。介助研修では、実際に介助される役にもなり受ける側の気持ちを知り、細やかな配慮が出来ることを目指している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			該当する可能性がある児童に対しては、保護者にもしも“身体拘束となった場合”の手順を説明し、確認をもらっている。現在は該当者がいないので身体拘束を行う必要がでた場合には、会議を行い改善策等の提示をしていきたい。車いすのベルト等の身体固定具を使用する児童に対しては別途保護者に確認をもらっている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			保護者や医療機関の指示をもらい、従業員に周知徹底するとともに誤提供とならないように工夫をしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリハットなどに該当する事案はスタッフ間で共有し、再発防止に向けて改善策や対応の方法について話し合いの場を設けている。日頃から小さいことだが気になることを社内のツールを用いて共有し、情報の確認漏れがないよう気を付けている。